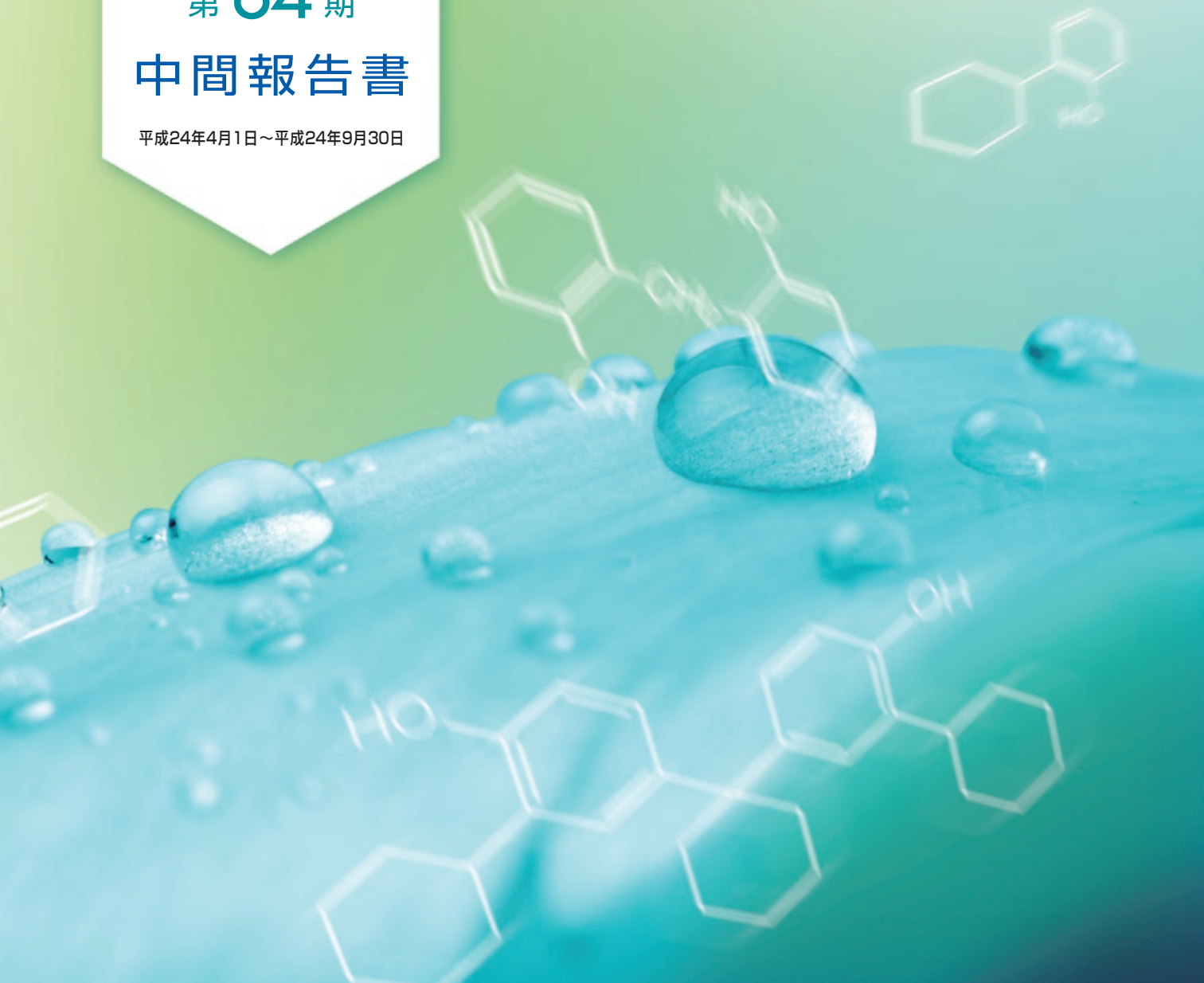


第 84 期
中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日





代表取締役社長

船越良幸

当社の経営ビジョン

当社は、経営ビジョンとして、次の「経営理念」と「目指すべき企業像」を掲げております。

【経営理念】

企業活動を通して、社会の持続的発展、国民生活の福祉増進に貢献するとともに、お客様、従業員、株主及び地域社会から真に信頼される存在であり続ける。

【目指すべき企業像】

独自のフェノール誘導品合成技術をもとに、他社が真似のできない製品を創出し、最高のサービスにより提供するグローバル・ファインケミカル・スペシャリスト

株主の皆様には、平素より格別のご高配とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、平成24年9月30日をもちまして、第84期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の上半期を終了いたしましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

当社グループの事業活動

当社グループは、上記の経営ビジョンのもと、現在、トリメチルフェノール（ビタミンE原料）を主力とした“クレゾール誘導品”、“フォトレジスト材料”、“ビフェノール”、“特殊ビスフェノール”及び“ビスフェノールF”の5事業をコア事業と位置づけ、これらの製品を中心に、主として情報・通信、自動車、医薬などのニッチ分野向けに、国内外において積極的な事業活動を展開しております。

当社グループは、より高度化・多様化する市場ニーズに的確に応えるため、当社が創業以来培ってまいりました独自の技術を活かし、高い品質を有する特徴のあるファインケミカル製品を今後とも開発・提供し続けてまいります。

当上半期の概況

当上半期における経済環境は、わが国経済が東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかながらも景気回復への動きがみられた一方で、中国等の新興国における経済成長の鈍化、欧州債務危機の再燃や円高の定着などの懸念材料を抱え、依然として先

行き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境も、当社の主力製品と関連の深いIT関連機器・デジタル家電分野での薄型テレビやパソコン等の生産・在庫調整により、ほとんどの製品の需要が減少するとともに、一部主力製品の販売価格が下落するなど、引き続き厳しい状況となりました。

さらには、平成24年4月22日に発生した三井化学株式会社岩国大竹工場の爆発・火災事故により、当社製品の主要原料であるメタバラクレゾールの生産・出荷が停止したため、当社は、一部主要製品の生産・販売活動において制約を受けるとともに、工場操業率の低下による固定費負担の増加を招くこととなり、売上高及び利益のいずれも減少を余儀なくされました。

このような事業環境のもとで、当社グループは、収益の改善と向上を図るため、主力製品の拡販と新製品の開発促進に傾注するとともに、和歌山工場の合理化を始めとした経営全般にわたるコスト競争力の強化に全力を挙げて取り組んでまいりました。

しかしながら、当社グループの当上半期における売上高は、77億69百万円（前年同期比8.6%減）にとどまり、利益面につきましても、営業利益3億91百万円（同62.5%減）、経常利益3億85百万円（同62.5%減）、中間純利益1億73百万円（同71.6%減）となり、いずれも大幅な減益となりました。

なお、中間配当につきましては、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、前年同期と同額の1株につき6円とさせていただきますことといたしました。

今後の事業環境の見通しと当社グループの取り組み

これまで震災復興需要等を背景に緩やかな回復基調で推移してきた国内経済は、欧州の債務問題による海外経済の減速化と円高の長期化に加えて、中国など新興国における経済成長の鈍化や日中間関係の悪化による経済への影響などにより、今後景気の下振れリスクが高まるおそれがあり先行き予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような情勢のもと、当社グループを取り巻く今後の経営環境につきましても、引き続き薄型テレビやパソコン等のIT関連機器・デジタル家電の需要低迷が懸念されるとともに、市場のグローバル化の進展により競合他社との競争が一層激化することが予測されるなど、依然として厳しい状況が継続する見通しであります。なお、三井化学株式会社におけるメタバラクレゾールの生産は、平成24年9月下旬より再開しましたが、調達コストの上昇も予想されるため、今後の当社業績への影響は避けられないものと見込まれます。

このような状況のもとで、当社グループは、引き続きコストダウンの強化など業績改善のための諸施策を鋭意実行していくとともに、平成24年4月より新たにスタートさせた4か年の2012年度中期経営計画の主要重点課題である「主力製品の競争力強化と事業拡大」、「損益分岐点稼働率改善による和歌山工場の基盤強化」、「新規製品の開発と新規事業の立ち上げ」等に全力を挙げて取り組み、変化する事業環境においても競争力・収益力のある経営基盤を構築してきている所存であります。

また、当社の連結子会社であるHi-Bis GmbH（ハイビス社）では、高耐熱性の特殊ポリカーボネート樹脂原料である特殊ビスフェノールの需要拡大に対応するため、平成26年3月の完工を目標に本年10月、製造設備の増強工事^{*1}に着手しました。当社といたしましては、今後、同社に対し、共同出資者の三井物産株式会社、ドイツ三井物産有限会社及びバイエル マテリアルサイエンス社^{*2}とともに積極的な支援を行い、建設工事の完遂に注力していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、何とぞより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※1. 本件増強工事の概要につきましては、本報告書の5ページに掲載するトピックスをご参照願います。

※2. バイエル社（ドイツ）のグループ企業

事業の概況（連結）

■ 主要製品及びその用途

| 部門 | 主要製品 | 主な用途 |
|------|---|---|
| 化学品 | ■クレゾール誘導品 トリメチルフェノール 精製BHT メタクレゾール 3M6B | ビタミンEの原料 酸化防止剤 医薬品、農薬の原料 酸化防止剤の原料 |
| | ■ビスフェノール | 液晶ポリマー（LCP）の原料 |
| | ■ビスフェノールF | 特殊エポキシ樹脂の原料（難燃性積層板、粉体塗料） |
| 機能材料 | ■フォトレジスト材料 | 半導体・LCD（液晶ディスプレイ）製造用材料 |
| | ■感光性ポリイミド材料 | 感光性ポリイミド（半導体素子の表面保護膜用途向け）の材料 |
| | ■特殊ビスフェノール | 特殊ポリカーボネート樹脂の原料（自動車用部品、光学用電子部品） 特殊エポキシ樹脂の原料（エポキシ封止剤・積層板） |
| 工業材料 | ■ハイビス社製品（特殊ビスフェノール） | 特殊ポリカーボネート樹脂の原料（自動車用部品） |
| | ■受託品 | |

■ 部門別の販売状況

化学品部門（売上高構成比 44.3%）

売上高 34億39百万円（前年同期比 13.5%減）

営業利益 △1億16百万円（前年同期は
営業利益1億55百万円）

当上半期における各主要製品の販売状況は、次のとおりであり、これらの製品のうちトリメチルフェノール及びその他のクレゾール誘導品は、メタパラクレゾールを原料としており、当上半期においては当社へのメタパラクレゾールの供給が停止したため、生産・出荷調整を余儀なくされました。

・トリメチルフェノール

クレゾール誘導品の主力製品であるトリメチルフェノールは、主に家畜用飼料の添加剤に使用されるビタミンEの原料として、主として中国及び欧州向けに輸出されております。

引き続きユーザーサイドでの在庫・出荷調整が行われている中で、当上半期においては、原料であるメタパラクレゾールの当社への供給が停止したことにより、トリメチルフェノールの供給余力がなくなり販売活動面において制約を受けたため、売上高は前年同期に比べ大幅に減少しました。

・その他のクレゾール誘導品

メタパラクレゾールを原料とするその他のクレゾール誘導品につきましては、酸化防止剤の精製BHTを始め、各種樹脂添加剤の原料であるメタクレゾール、3M6B及び4M2Bについて、堅調な需要に応えるべく出来る限りの生産・出荷調整に努めながら販売を行いました。

その結果、当上半期におけるその他のクレゾール誘導品全体の売上高は、前年同期に比べ増加しました。

・ビスフェノール

ビスフェノールは、パソコン・携帯電話等のIT関連機器やデジタル

家電の電子部品に用いられる耐熱性・精密成形性に優れた液晶ポリマー（LCP）の原料として使用されております。

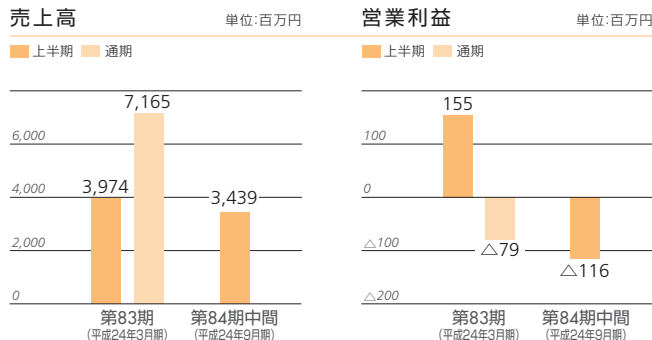
当上半期においても引き続きユーザーサイドでの生産・在庫調整により需要が大きく減退したため、売上高は前年同期に比べ大幅に減少しました。

・ビスフェノールF

ビスフェノールFを使用したエポキシ樹脂は、加工性と金属接着性に特に優れており、ノンハロゲンタイプの難燃性積層板や粉体塗料等の土木・建設材料用途に使用されております。

当上半期においても引き続きユーザーサイドでの生産・在庫調整による需要減退がみられたことに加え、比較対象である前年同期において東日本大震災に伴う当社からの支援出荷が行われたこともあり、売上高は前年同期に比べ減少しました。

この結果、化学品部門の売上高は34億39百万円（前年同期比13.5%減）、総売上高に占める割合は44.3%となり、営業損失は1億16百万円（前年同期は営業利益1億55百万円）となりました。



機能材料部門 (売上高構成比 22.3%)

| | |
|------|-------------------------|
| 売上高 | 17億33百万円 (前年同期比 17.5%減) |
| 営業利益 | 4億3百万円 (前年同期比 43.3%減) |

・フォトレジスト材料

フォトレジスト材料は、半導体及び液晶ディスプレイ (LCD) の製造過程で使用されております。

当上半期においては、薄型テレビやパソコン等の需要減退に加え、三井化学株式会社 の事故によりフォトレジストの製造に必要なノボラック樹脂 (メタバラクレソールを原料) の調達が困難となったため、当社のユーザーであるフォトレジスト メーカーでは、フォトレジストの生産・在庫調整を余儀なくされ、また先行きの状況も不透明なことから、フォトレジスト材料を買い控えることとなりました。

その結果、当上半期におけるフォトレジスト材料の売上高は、半導体用及びLCD用のいずれも減少したため、前年同期を下回りました。

・感光性ポリイミド材料

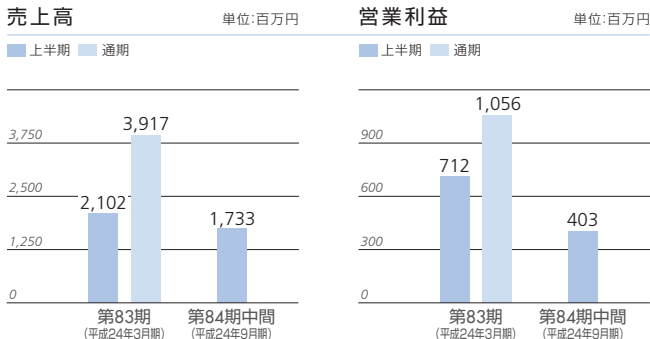
感光性ポリイミド材料は、半導体素子の表面保護膜に使用される感光性ポリイミド向けの材料であり、これまで堅調な需要を背景に順調な販売を続けておりましたが、当上半期においては、世代交代の影響も受けたことにより大幅な減販となったため、売上高は前年同期を大きく下回りました。

・特殊ビスフェノール

特殊ビスフェノールを原料とした樹脂は、耐熱性、光学特性に優れているため、特殊ポリカーボネート樹脂 (自動車用部品、光学・電子部品用途向け) や特殊エポキシ樹脂 (エポキシ封止材・積層板用途向け) の原料として使用されております。

引き続き光学・電子部品用途向けの需要が概ね堅調に推移しておりますが、一部ユーザーへの出荷時期が当上半期以降にスライドしたため、当上半期の売上高は前年同期に比べ減少しました。

この結果、機能材料部門の売上高は17億33百万円 (前年同期比 17.5%減)、総売上高に占める割合は22.3%となり、営業利益は4億3百万円 (同43.3%減) となりました。



工業材料部門 (売上高構成比 32.5%)

| | |
|------|------------------------|
| 売上高 | 25億29百万円 (前年同期比 8.0%増) |
| 営業利益 | 3億8百万円 (前年同期比 22.8%減) |

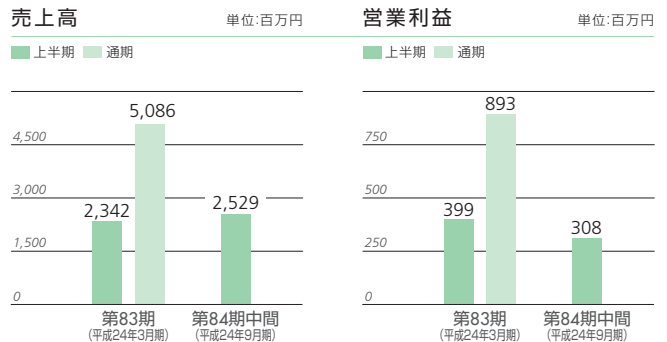
・特殊ビスフェノール

自動車用部品向けの特種ポリカーボネート樹脂の原料に使用される特殊ビスフェノールは、主に海外生産拠点のHi-Bis GmbH (ハイビス社) において製造販売されており、当上半期においても、引き続き需要が増加したため、売上高は前年同期を大きく上回りました。

・受託品

当上半期の売上高は、受託数量が増加したため、前年同期を上回りました。

この結果、工業材料部門の売上高は25億29百万円 (前年同期比 8.0%増)、総売上高に占める割合は32.5%となり、営業利益は3億8百万円 (同22.8%減) となりました。



その他部門 (売上高構成比 0.9%)

販売用役等のその他部門の売上高は66百万円 (前年同期比 15.4%減)、総売上高に占める割合は0.9%となり、営業利益は13百万円 (同30.0%減) となりました。

■ ハイビス社（ドイツ）の製造設備増強工事を開始

当社の連結子会社であるHi-Bis GmbH（以下「ハイビス社」）の特殊ビスフェノールは、高耐熱性の特殊ポリカーボネート樹脂の原料として使用されており、主に自動車用途向けとしてバイエル社（ドイツ）のグループ企業であるバイエル マテリアル サイエンス社（以下「BMS」）に製造販売されております。

この特殊ビスフェノールは、現在需要の拡大を背景に好調な販売を続けており、ハイビス社の製造設備は2010年以降フル稼働の状況となっておりますが、今後さらなる需要の拡大が見込まれており、現有の生産能力（5,000トン／年）では、大幅な供給不足となることが予想されております。

このため、当社は、ハイビス社の製造設備の増強計画（10,000トン／年に倍増）について、かねてより同社の共同出資者である三井物産株式会社、ドイツ三井物産有限公司及びBMSとの間で協議検討を重ねるとともに、本件増強に係る建設工事に向けた諸準備を進めてまいりました。

この度、本件増強工事に関し、ハイビス社の株主間において合意が得られるとともに、関係先のご支援により準備作業のすべてを無事に終えることができたため、本年10月1日、ドイツ・ザクセン アンハルト州首相、在ドイツ日本国大使を始め多数の来賓を迎えて起工式を執り行い、建設工事に着手いたしました。

このハイビス社における特殊ビスフェノールの増強は、当社グループの収益基盤をより一層強固なものとし、当社グループの持続的成長と更なる飛躍を達成するうえで大きな役割を果たすものと期待されます。

当社といたしましては、今後、ハイビス社及びその共同出資者である上記3社と緊密に連携しながら、本件増強工事の完遂に全力を傾注してまいります。

ハイビス社の概要

- ・ 設立 2001年11月（2004年12月営業開始）
- ・ 資本金 1百万ユーロ
- ・ 出資者及び出資比率 当社55%、三井物産株式会社25%、ドイツ三井物産有限公司10%、BMS10%
- ・ 本社及び工場所在地 ドイツ
ザクセン アンハルト州ビッターフェルド地区

増強工事の概要

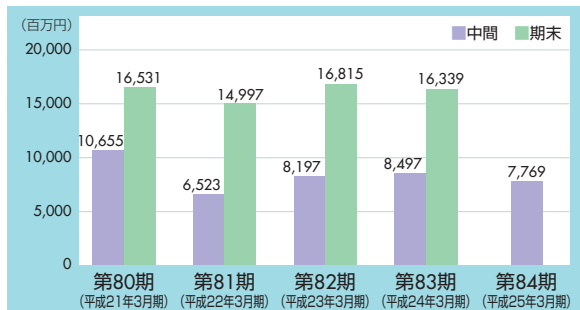
- ・ 増強生産能力 5,000トン／年
（増強後の生産能力は10,000トン／年）
- ・ 増強内容 現有製造設備の隣接地に新たな製造設備を設置
- ・ 投資金額 約50百万ユーロ
- ・ スケジュール 完工：2014年3月予定
営業運転開始：2014年7月予定



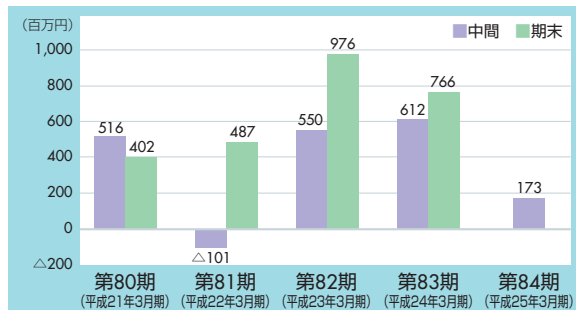
（鉄入れ式）

財務ハイライト（連結）

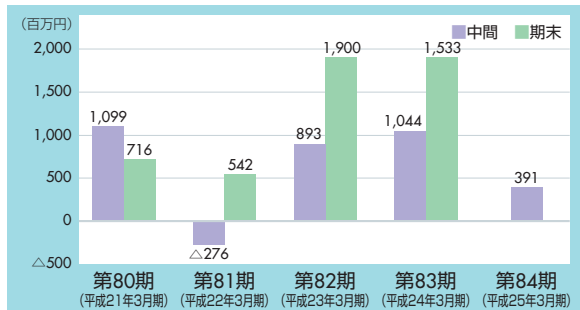
● 売上高



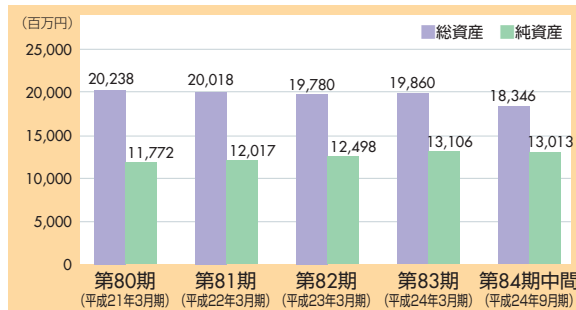
● 中間（当期）純損益



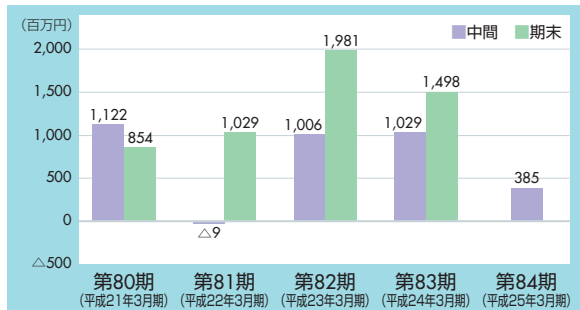
● 営業損益



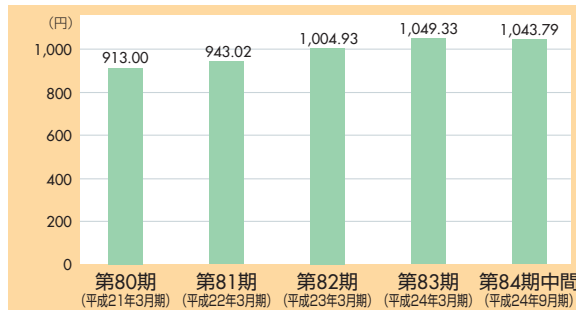
● 総資産・純資産



● 経常損益



● 1株当たり純資産



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 (平成24年 9月30日現在) | 前 期 (平成24年 3月31日現在) | 科 目 | 当中間期 (平成24年 9月30日現在) | 前 期 (平成24年 3月31日現在) |
|---------------|-------------------------|------------------------|----------------|-------------------------|------------------------|
| (資産の部) | | | (負債の部) | | |
| 流動資産 | 10,179 | 12,294 | 流動負債 | 4,061 | 5,548 |
| 現金及び預金 | 2,577 | 4,066 | 買掛金 | 1,510 | 1,582 |
| 売掛金 | 3,469 | 3,774 | 短期借入金 | 1,000 | 1,000 |
| 商品及び製品 | 2,947 | 3,239 | 1年内返済予定の長期借入金 | — | 1,400 |
| 仕掛品 | 263 | 391 | 未払金 | 461 | 324 |
| 原材料及び貯蔵品 | 550 | 494 | 未払法人税等 | 134 | 66 |
| 繰延税金資産 | 104 | 104 | 設備関係未払金 | 527 | 724 |
| その他 | 266 | 223 | 役員賞与引当金 | 10 | 20 |
| 固定資産 | 8,166 | 7,566 | その他 | 416 | 430 |
| 有形固定資産 | 7,502 | 6,847 | 固定負債 | 1,271 | 1,205 |
| 建物及び構築物 | 1,488 | 1,535 | 退職給付引当金 | 1,105 | 1,064 |
| 機械装置及び運搬具 | 4,366 | 4,525 | 役員退職慰労引当金 | 67 | 54 |
| 土地 | 532 | 538 | その他 | 99 | 87 |
| 建設仮勘定 | 962 | 109 | 負債合計 | 5,332 | 6,754 |
| その他 | 151 | 138 | (純資産の部) | | |
| 無形固定資産 | 26 | 49 | 株主資本 | 12,266 | 12,208 |
| 投資その他の資産 | 637 | 669 | 資本金 | 1,500 | 1,500 |
| 投資有価証券 | 120 | 131 | 資本剰余金 | 1,013 | 1,013 |
| 繰延税金資産 | 391 | 389 | 利益剰余金 | 9,764 | 9,705 |
| その他 | 126 | 148 | 自己株式 | △11 | △11 |
| 資産合計 | 18,346 | 19,860 | その他の包括利益累計額 | △282 | △160 |
| | | | その他有価証券評価差額金 | △0 | 9 |
| | | | 為替換算調整勘定 | △282 | △169 |
| | | | 少数株主持分 | 1,029 | 1,058 |
| | | | 純資産合計 | 13,013 | 13,106 |
| | | | 負債純資産合計 | 18,346 | 19,860 |

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 中 間 期 | |
|-----------------------------|-----------------------------|--|
| | (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日) | 前 中 間 期 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
| 売 上 高 | 7,769 | 8,497 |
| 売 上 原 価 | 6,538 | 6,639 |
| 売 上 総 利 益 | 1,230 | 1,858 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | 839 | 813 |
| 営 業 利 益 | 391 | 1,044 |
| 営 業 外 収 益 | 37 | 16 |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 22 | 3 |
| そ の 他 | 14 | 12 |
| 営 業 外 費 用 | 43 | 30 |
| 支 払 利 息 | 11 | 15 |
| そ の 他 | 31 | 15 |
| 経 常 利 益 | 385 | 1,029 |
| 税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益 | 385 | 1,029 |
| 法 人 税 等 | 148 | 336 |
| 少 数 株 主 損 益 調 整 前 中 間 純 利 益 | 236 | 692 |
| 少 数 株 主 利 益 | 63 | 80 |
| 中 間 純 利 益 | 173 | 612 |

〈注〉記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 中 間 期 | |
|------------------|-----------------------------|--|
| | (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日) | 前 中 間 期 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,765 | 1,058 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,656 | △277 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,514 | △114 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △82 | △36 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △1,488 | 629 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 4,066 | 3,570 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 2,577 | 4,200 |

〈注〉記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

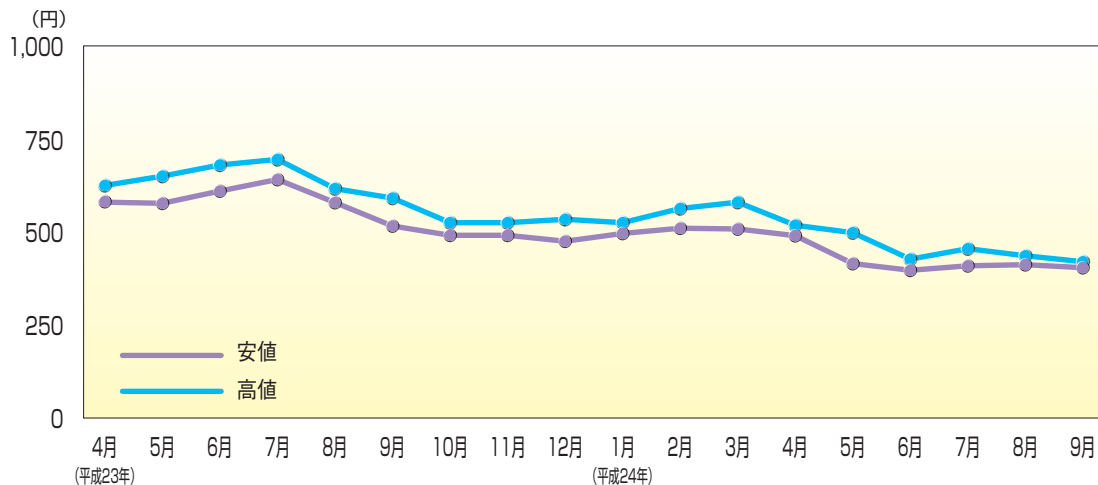
会社の概要 (平成24年9月30日現在)

| | |
|------------|--|
| 商号 | 本州化学工業株式会社 |
| 証券コード | 4115 |
| 主な事業内容 | 液晶ポリマー (LCP)、特殊ポリカーボネート樹脂及び特殊エポキシ樹脂などの高機能樹脂の原料、フォトレジスト材料、医薬品、農薬、ゴム薬品などの原料となる各種化学品の製造及び販売 |
| 資本金 | 15億50万円 |
| 所在地 | 東京都中央区京橋一丁目1番1号 八重洲ダイビル2階 |
| 本店 | 東京都中央区京橋一丁目1番1号 八重洲ダイビル2階 |
| 和歌山工場 | 和歌山市小雑賀二丁目5番115号 |
| 総合研究所 | 和歌山市小雑賀二丁目5番115号 |
| 従業員数 | 323名 (前期末比2名増) |
| ホームページアドレス | http://www.honshuchemical.co.jp/ |

| | | |
|----|------------|--------|
| 役員 | 代表取締役社長 | 船越良幸 |
| | 代表取締役常務取締役 | 福島俊之 |
| | 常務取締役 | 江川健志 |
| | 常務取締役 | 伴野健一郎 |
| | 常務取締役 | 津川和人 |
| | 取締役 | 磯田陽一郎 |
| | 取締役 | 塩見泰一 |
| | 取締役 | 長谷川民清 |
| | 常勤監査役 | 村上雅章 ※ |
| | 監査役 | 柏木薫 ※ |
| | 監査役 | 川上康夫 ※ |

(注) ※印は、社外監査役であります。

株価推移



株式の状況 (平成24年9月30日現在)

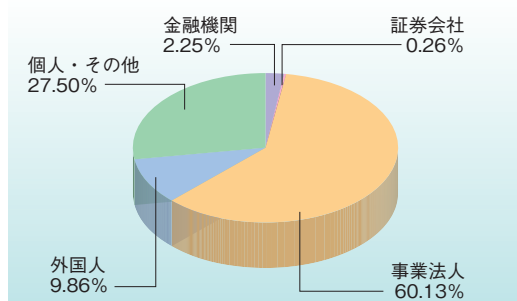
1. 発行可能株式総数 40,000,000株
2. 発行済株式の総数 11,500,000株
3. 株主数 1,373名 (前期末比7名増)
4. 大株主 (上位10名)

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|--|----------|---------|
| 三井物産株式会社 | 3,098 千株 | 26.98 % |
| 三井化学株式会社 | 3,098 | 26.98 |
| ピービーエイチフォーフィデリティーロープライスストックファンド (プリンシパルオールセクターサポートフォリオ) | 800 | 6.96 |
| 種 田 修 | 282 | 2.45 |
| 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 222 | 1.93 |
| アキ商会株式会社 | 177 | 1.54 |
| 学校法人田中育英会 | 170 | 1.48 |
| 木村吉孝 | 152 | 1.32 |
| メロンバンクエヌエー トリーティークライアントオムニバス | 125 | 1.08 |
| 大和産業株式会社 | 124 | 1.08 |

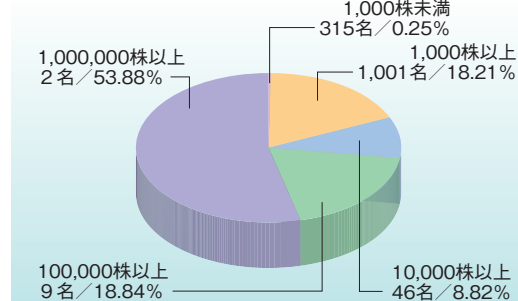
〈注〉持株比率は、自己株式(18,556株)を控除して計算しております。

株式の分布状況

・所有者別



・所有株数別





本州化学工業株式会社

東京都中央区京橋一丁目1番1号

電話 (03) 3272-1481

株 主 メ モ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月下旬
- 株主確定基準日
定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
(中間配当を実施する場合)
その他必要あるとき あらかじめ公告して定めた日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び
全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出下さい。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。
- ・「配当金計算書」について
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

■ 単元株式数 1,000株

- 公告方法 電子公告とし、下記ホームページに掲載します。
<http://www.honshuchemical.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に公告します。